

第1章 文化芸術教育を取り巻く環境の変化

1 社会の構造的変化

①社会経済の変化の中で求められる文化芸術

- ・文化芸術は、人々の生活の礎となり日常に彩りと潤いを与えるとともに、豊かな人間性を涵養し、創造性、感性を育み、世代を問わず私たち人類にとって必要不可欠なもの
- ・創造することの喜びを味わい、豊かな心を育むなど、文化芸術教育の果たしてきた役割は大きい

②デジタル化がもたらす社会の構造的変化

- ・社会の誰もがICTの活用により創造性を発揮し未来を創り出すことができる、創造性が開かれた時代となり、そうした時代に即した学びの在り方が求められる
- ・データ化しきれない感覚的・身体的な体験の意義が大きく高まり、身体全体で感じることや非言語体験がより重視され、身体性を基本とする人間の本来的な能力が一層重要になっていく

③GIGAスクール構想を踏まえ大きく変わる学びの環境

- ・1人1台端末環境が整備され、学校において、空間的・時間的制約を乗り越えながら子供たちの創造性の発揮、多様な特性を生かした個別最適な学びや協働的な学びの展開が可能となり、学びの転換が進みつつある

2 文化政策の転換

①文化芸術活動の新たな展開

- ・世界中の多様な人々が作品を通じて交流し、多様な価値観の尊重、共感、相互理解をもたらす
- ・文化芸術の交流・協働から生まれる新たな価値創造、それらを国内外に発信する芸術活動促進が重要

②土壌の広がりから価値の創造と発信による好循環（CBX）

- ・国におけるCBXの推進 ※CBX:Cultural Business Transformation
文化芸術の担い手育成を通じ豊かな「土壌」づくり
→豊かな土壌から新たな価値創造、価値が経済循環を生み出す
→国内外の発信を高め文化・経済の好循環を生み出す

③文化と経済の好循環「CBX」を実現するための政策の転換

- ・社会的・経済的価値を踏まえた国の文化政策の転換
- ・コンテンツ産業の源泉であるクリエイター等の育成支援は重要
- ・文化芸術を自分自身に関わりのあるものとして、文化芸術教育の本質的価値の認識を深め、新しい価値づけの流れをつくりだすことが必要

一人一人が文化芸術のよさや美しさを感じ取ることによって価値を創造していく

- ・対話による学びの中で広がりや深まりが生まれ、自分の中に意味や価値をつくりだし、喜びが味わえる鑑賞の時間に
- ・表現(アウトプット)と鑑賞(インプット)の相互の関連が重要

第2章 文化芸術教育の今後の方向性

1 子供たちの学びの転換をリードする文化芸術教育

①文化芸術教育とこれからの学習指導要領の在り方

芸術系教科は、問いやテーマ、答えを自分でつくりだしていく学習であり、これから先の不確実な社会の中でこそ一層重要となる

個別性の重視による多様性の包容、多様な価値を認める柔軟な発想や他者との協働、身体を通して知性と感性を融合させながら対象や事象を捉えていくなど、芸術系教科における学びの意義は一層高まっている

- ・変化が激しい時代の中で、未来を創造していく力や自ら問いを生み出し形にする力の育成が期待される
- ・こうした芸術系教科の価値が十分に踏まえられ、子供たちの学びの転換をリードしていく必要性がある
- ・何を教えるのかというコンテンツベースの授業づくりから、資質・能力ベースの授業づくりへの一層の推進

※**文化芸術**を特別のものや限られた人のものとして捉えるのではなく、**日々の生活や社会の中で生きることと関わりながら脈々と息づいている大切な存在としてどう盛り込むかは検討が必要**

※非認知能力について単に個人内の個性やよさのみで終始するのではなく、答えの用意されていない問いに向かう**課題解決的な側面**や、自分にとっての意味や価値をつくりだしていく**芸術系教科特有の学びの過程の側面**から育成の在り方について検討が必要

③豊かな土壌としての文化芸術体験の充実

- ・文化芸術を直接鑑賞することや文化芸術活動を行うことは人のウェルビーイングに資するもの
- ・学校教育において、一流の文化芸術団体による公演や美術館等で直接鑑賞するなど「本物」に触れることは、障害のある子供たちも含め全ての子供たちの豊かな感性や想像力等の育成に資するもの

②個別性・即興性・創発性のある学びとしての文化芸術教育

個別性の高い学び

子供たちの特性や関心に応じて考えたり、表現したりする

即興性の強い学び

自分なりの感性を働かせて直感的に考えたり、表現したりする

創発性のある学び

自分の感覚を研ぎ澄ませ個人の発想を全く異なる次元や分野から全く異なるものを創発するイノベーションへと誘発する

◎**芸術系教科は以下の学びにつながるもの**

- ・自分の問いや答えをつくりだす過程で、他者と協働しながら、自分とは異なるものの見方や考え方を理解し、**既存概念にとらわれない自由な発想で物事を捉え考える、自分の内側にある思い、感情に気付きをもたらす、全体像を自分でつくりだす**
- ・自分の感覚を使った**ノンバーバルなコミュニケーション能力の育成**
- ・AIなどに代替されない創造的、批判的思考がより必要となるこれからの社会において、**他教科との連携の中での創造的な思考**
- ・**我が国の伝統や文化**に関する教育が国際理解教育へとつながるとともに、**多様な世界の文化**を学ぶことにより、日本文化に対する興味関心を高め、よさに気付く
- ・何かを**表現・発明したい**といった**意欲**や、唯一の正解がない中、自分の**感覚を研ぎ澄ませてオリジナルの作品や回答を創り上げる**といった個人の発想を、全く**異なる次元や分野から新たな結合によって全く異なるものを創発する**

◎**これからの日本社会において、科学技術と人文学、社会学等の異分野を融合することにより新たなものを生み出すイノベーションが重要**であることから、**芸術教育における学びは重要**

第2章 文化芸術教育の今後の方向性

2 文化芸術教育の充実・改善の方向性

①教育課程における文化芸術教育の充実の方向性

- 芸術系教科での学びは、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力の育成を目指しているものであることを広く国民に伝えていく必要がある
 - 芸術系教科においては、実際に対象に触れるなど直接感じ取る活動や身体活動を大事にしながら、表現や鑑賞のプロセスによる創造性や資質・能力の育成をより一層重視すべき
 - 表現及び鑑賞の活動を通じ、子供たちが自発的な問いを立てながら学び、求められる資質・能力を育成する授業の実施が重要
- 【今後の検討】
- ◎ 各校種における学びの系統性を確保しつつ、芸術系教科それぞれの見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、形や色、美術や工芸、音楽文化や美術文化、工芸の伝統と文化、書の伝統と文化などと豊かに関わる資質・能力を育成する目標・内容をより改善する必要
 - ◎ 目標・内容の構成への中核的な概念や方略など更なる構造化により、芸術系教科の学びの意味や、生活や社会とのつながりに対する更なる明確化が必要

<芸術系教科の学習評価について>

芸術系教科においては、これまでもパフォーマンス課題などに対応した評価を取り入れた活動を実施



今後、これまでの蓄積を活かしながらパフォーマンス評価に求められるルーブリックの発想を取り入れるなどの検討をしてはどうか

※評価の観点、頻度や見取りから総括的評価の中での整理などについて、学びの過程に着目し子供の主体性がより発揮され、学習の改善に資するよう芸術教科の特性を生かす

<学習指導要領の趣旨を踏まえた指導の充実>

- 芸術系教科においては、題材設定に課題が見られることから、中核的な概念や方略を示すことで、学校現場において「本質的な問い」の理解が深まり、指導の充実につながるのではないか

【小学校図画工作科における学校現場で設定する題材イメージの一例】

- ・ 題材：「未来を想像してみよう」
- ・ 本質的な問い：未来を想像して見付けた表したいことをどのように表せるか
- ・ 中核的な概念や方略：自分の感覚や行為を通して形や色などの造形的な特徴を理解し、自分のイメージをもちながら、伝え合いたいことから表したいことを見付け、形や色、材料の特徴などを考えながら、どのように表していくかについて考え、表し方を工夫して表す。

【中学校音楽科における学校現場で設定する題材イメージの一例】

- ・ 題材：「交響詩「ブルタバ」は現代の私たちにどのようなメッセージを与えてくれるだろう」
- ・ 本質的な問い：「音楽は人間にとってどのような存在になり得るか
- ・ 中核的な概念や方略：音楽の特徴とその背景となる歴史との関わりについて理解する。社会における音楽の意味や役割について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。

ルーブリックを用いた評価への意見

題材のまとまりや授業における「身に付ける力」が明確になり、子供たちにも共有することで子供たちが見通しをもって学びに取り組める

結果ではなく過程の評価から指導と評価の一体化の実現が期待できる

芸術系教科は、答えがない自由な発想が重要であるのに対し、目指すべき方向や子供たちの姿が確定的になりすぎることで学びを制限し、子供たちの創造性や個別性・即興性・創発性が十分に発揮できなくなることを考慮

教員がその趣旨を十分理解する必要がある

ルーブリックを活用するための共通認識の形成や条件整備などについて十分検討が重要

第2章 文化芸術教育の今後の方向性

<芸術系教科の充実に当たって>

- ・新しい価値観や感覚、考え方等に触れ、自ら進んで楽しむことのできる芸術ならではの様々な学びに出会えるようにする
 - ・芸術系教科の目標に示された、子供たちが生活や社会の中の芸術や芸術文化と一層豊かに関わることができるよう、表現及び鑑賞の学習活動と育成を目指す資質・能力との関係をより明確にする
 - ・高等学校において、小・中学校での学びを踏まえ、芸術を学ぶことの意味、価値など「芸術」そのものを学ぶ機会の設定や、分野横断的な幅広い分野を学ぶ機会を設けるなど、芸術教育の充実、改善が必要
- ◎芸術系教科において育成する資質・能力の一層重視や教育内容に関連する今後の在り方については、中央教育審議会における専門的な検討を期待
- ※ICTを活用した活動と身体や用具を使って具体化する活動とを往還した事例の収集、研修等を通じた横展開を進めるべき
- ※芸術と他教科等を往還する教科横断的なSTEAM教育など、芸術の本質や芸術の重要性に子供たちが気付く教育の在り方を考えていくことは重要
- ※伝統芸能、伝統音楽など、型などの基礎から新たな創造が加わり変化し現在まで継承されていることを学び、我が国の文化を継承し新たな価値や文化を積極的に創造していく意識付けがより一層重要

②豊かな土壌としての文化芸術体験の充実の方向性

AIなどのテクノロジーがより一層進化していくこれからの時代において、感性を働かせることはより一層重要であり、子供たちに豊かな感性や創造性等を育んでいくため、様々な本物に実際に触れる機会を提供することが必要

- ◎子供たちが地域や家庭環境にかかわらず、必要な教材や多様な文化芸術コンテンツを使用できる環境の整備

③文化芸術教育を支える人材とリソースの多様化の方向性

子供たちの創造性を育むためには、教えるという役割のみならず、ファシリテーターやメンターなどの役割も必要

→地域における美術館・博物館や芸術団体等との連携を図るコーディネーターとなる文化芸術の外部人材を活用

芸術系教科の存在意義や重要性を教師が理解することが重要

※子供たちの身の回りにはない雅楽や歌舞伎、文楽、能楽などを扱う際には、子供たちがその意味や価値を見いだすことができるようにすることが重要

※マンガ、アニメ、ゲーム、映画等の授業実践の少ない分野においては、関係団体や大学等との連携・協力を得て効果的な授業の実証、普及が必要

学校全体として、子供たちの主体性が十分発揮できるような時間を確保する必要性について共通理解をもつことが重要

→芸術系教科において育成する資質・能力について教職員間で共通認識を図るなどの工夫が重要

芸術系教科教員の指導力の向上に向けた人材育成が重要

→非常勤を含む教員の研修の機会の確保や、指導主事等を対象とした研修の充実、学校と外部との連携を推進するコーディネートを行う人材や団体の支援が重要

障害の有無にかかわらず子供たち同士や人々が交流する機会を、文化芸術教育を通じて創出し、互いの理解を育んでいくことが重要

→多様な他者との輪を文化芸術を通じて広げていくことができるような施策が求められる